

歓迎你来北京！（どうぞ北京へお越してください）

北京事務所

国有化から 1 年

2012年9月11日。ご存じのように、日本国政府が尖閣諸島を個人から購入し土地の所有権を取得した日です。この日を境に日中両国の外交関係は「困難な状況」と評される状態が1年以上続き、今日に至っています。

この間、日中国交正常化40周年の記念行事が延期されたままになるなど、両国間の友好関係は危機的な水域に入っていき、解決の糸口さえ見いだせないかにも見えます。

自治体関係の行事も軒並み延期となり、年度内に開催されることなく無念の思いで本年度を迎えた関係職員の方もたくさんいらっしゃると思います。

実際の雰囲気

このような状況下にあってもなお、日中両国の友好関係を発展させようという志を同じくする中国側の関係者の協力を得て、私たちクレア北京事務所の事業は、日中の自治体・地方政府職員が一堂に会する行事や、職員等人の往来など、全てが順調に推移しています。正直、双方の担当者は薄氷を踏む思いで、準備を進めていたに違いない時期もあったと思いますが、中国側の関係者の協力姿勢は一貫して不変でした。多くの方が行事や会議での発言で「地方同士、民間の交流はこういうときだからこそ重要」と繰り返しおっしゃってくださり、その言葉を聞くたびに救われる思いがしました。

今年の4月に私は赴任したわけですが、何度か「今、中国に首長を出せる雰囲気でしょうか。」とか「今年度になって首長が訪中した事例はありますか、また中国側の反応はどうでしたか。」といった類似のお問い合わせをいただきました。日本にいて、現地の事情が見えにくい各自治体の担当者の方の偽らざるお気持ちだと思います。

今、私は、こうしたご懸念に対しては、自信を持って「どうぞお越してください。」と答えることができていると思っています。

中国の報道と実際

残念ながら当地では、知事、市長クラスの訪中であっても、その事実が報道されることはほとんどありません。しかしながら、中国側の対応は、訪問を歓迎し、困難な状況下にあっても地方の交流を継続、発展させていこうというメッセージを繰り返し、日本の自治体に対して表明されています。

また中国国民の間では、日本への関心は相変わらず高く、政治面での報道を除くと、日本の行事や文化、社会的な出来事などは数多く報道されており、旅行情報や芸術・文化、芸能界の情報などを目にするたびに、中国人が行ってみたい渡航先の上位に常に日本がランク入りしていることも、容易にうなずけます。

春は来る

北京は治安も良く、故宮や万里の長城など市内外に多くの世界的に著名な文化遺産を有し、中国の首都として各地方の文化も体験することのできる街でもあり、また外交官はもちろん留学生やビジネスマンなど多く外国人が暮らす国際都市です。

これから寒い冬に向かっていくのが残念ですが、気候の良い時期、是非北京にお越しください。

冬の後にはきっと春が来る、雪国育ちの私はそう信じています。

(平澤次長 兵庫県派遣)

